

< 題材計画表 >

時	学習内容	評 価			
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	音色やテクスチャの働きをいかして表現しよう < 5時間完了 > アカペラ (鑑賞) 「Kum Ba Yah」 (表現：歌唱)	目 標 知 曲想と「音色」や「テクスチャ」の働きとの関わりについて理解する。 「音色」や「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 思 「音色」や「テクスチャ」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、試行錯誤しながら、どのように表現するかについて考え、思いや意図をもったり、曲の良さや美しさを味わって聴いたりする。 態 「音色」や「テクスチャ」の働きかせ方の多様性に関心をもち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。			
1	【つかむ場】 ・課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 音色やテクスチャの働きをいかして表現しよう </div> ・課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①音色をいかした表現 ②テクスチャをいかした表現 </div> 【拡散的思考】 ・「アカペラの合唱曲」を鑑賞し、気付いたことや感じたことなどについて話し合う。 ・「アカペラの合唱曲」について、様々な地域や時代の曲であることや曲の背景について知る。 ・「アカペラの合唱曲」の「音色」や「テクスチャ」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・考えたことを全体で共有する。 ・「Kum Ba Yah」を聴き、個人で「表現のめあて」を設定する。 ・「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】	A 曲想と「音色」や「テクスチャ」の働きとの関わりを理解している。	「音色」や「テクスチャ」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲の良さや美しさを味わって聴いている。	A	「音色」や「テクスチャ」の働きかせ方の多様性に関心をもち、自己の表現だけでなく、グループで表現をより高められるよう、試行錯誤をしたり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。
		B 曲想と「音色」の働き、もしくは「テクスチャ」の働きとの関わりを理解している。	「音色」の働き、もしくは「テクスチャ」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲の良さや美しさを味わって聴いている。		
		方法 学習プリントの記述	学習プリントの記述	B	「音色」や「テクスチャ」の働きかせ方の多様性に関心をもち、他者からの助言を参考に、自己の表現を試行錯誤しながら取り組もうとしている。
2・3・4	【つくる場】 【拡散的思考】 ・「表現のめあて」を基に、グループで意見交換し、グループで表したいことを考える。 ・「音色」や「テクスチャ」をどのように工夫すれば、表したいことを表すことができるのかについてグループで練習しながら追究する。 ・「表現のめあて」を見直し、再設定する。 ・グループ同士鑑賞し合わせ、より構成や音色を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 【収束的思考】 ・ICT 機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に「表現のめあて」を決定する。【収M】	A 「音色」や「テクスチャ」の働きかせ方を試行錯誤しながら、どのように音楽で表現するかについて、明確に思いや意図をもっている。	「音色」、もしくは「テクスチャ」の働きかせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。		
		B 「音色」、もしくは「テクスチャ」の働きかせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。		活動の様子 学習プリントの記述	
		方法 活動の様子 学習プリントの記述			
5	【ふりかえる場】 ・発表会をする。 ・他のグループの演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 【拡・収RM】	A 「音色」と「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	「音色」や「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	方法	発表 学習プリントの記述
		B 「音色」、もしくは「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。			
		発表 学習プリントの記述			

<題材計画表>

時	学習内容	評 価				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	<p>【つかむ場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 小豆島の情景を、音楽で表現しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> 表現の課題を達成するために「試行錯誤するポイント」について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①音色（音素材）をいかした表現 ②テクスチャ（音の重なり方）をいかした表現 ③構成をいかした表現 </div> <p>【拡散的思考】</p> <p>『時の旅人』第1～5時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 「時の旅人」の音取りをする。 各場面のアナリーゼを行い、音楽の要素の働きと、それらによって生み出される曲想を捉える。 アナリーゼで捉えたことを基に意見発表を行う。 「時の旅人」のそれぞれの場面に題名をつけ、「試行錯誤するポイント」を基に考えた場面の特徴について全体で共有をする。 毎時間の終わりに、「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。 <p>『小豆島の音楽』第6・7時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 小豆島での宿泊学習を振り返り、どのような音を聴き、どのように表現として表すことができそうかをグループで考える。 参考曲として自然の様子の表れた楽曲を鑑賞し、音素材の特徴及び音の重なり方や、構成上の特徴について知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受する。 知覚したことや、感受したことをグループで共有し合う。 グループで創作に対するテーマを決め、表したい小豆島の情景をグループで想起し、個人で「表現のめあて」を設定する。 「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】 	A	音素材の特徴及び音の重なり方や、構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。	音素材の特徴及び音の重なり方や、構成上の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりを考えて聴いている。	A	音素材の特徴及び音の重なり方や、構成上の特徴に高い関心をもって取り組もうとしている。また、他者と意見を共有する中で、自己の表現だけでなく、グループで表現をより高められるよう、試行錯誤をしたり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。
		B	音素材の特徴、音の重なり方、構成上の特徴のいずれかと、表したいイメージと関わらせて理解している。	音素材の特徴、音の重なり方、構成上の特徴のいずれかを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりを考えて聴いている。	B	音素材の特徴及び音の重なり方や、構成上の特徴に関心をもって取り組もうとしている。また、他者からの助言を参考に、自己の表現を試行錯誤しながら取り組もうとしている。
8 ・ 9 ・ 10	<p>【つくる場】</p> <p>【拡散的思考】</p> <p>『小豆島の音楽（創作）』第8～10時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 「表現のめあて」に合わせて小豆島での宿泊学習で感じた小豆島の情景を、自然音や環境音に着目しながら4コマ漫画で表現し、それに伴いどのような音楽表現ができるかをグループで考える。 どのように工夫すれば、表したいことを表すことができるのかについて、「試行錯誤するポイント」を基にグループで練習しながら追究する。 	A	/	音素材及び音の重なり方や、構成を試行錯誤しながら、どのように音楽で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。	方法	活動の様子 学習プリントの記述
		B		音素材、音の重なり方、構成のいずれかを試行錯誤しながら、どのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。		

題材名

小豆島の情景を、音楽で表現しよう

<11 時間完了>

「時の旅人」(表現：歌唱)

「小豆島の音楽をつくろう」(表現：創作)

目標

知

音素材の特徴及び音の重なり方や、構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。音楽表現を創意工夫するために必要となる課題に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。

思

音素材の特徴及び音の重なり方や、構成上の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりを考え、ふさわしい表現を試行錯誤することで、どのように表すかについて思いや意図をもつ。

態

音素材の特徴及び音の重なり方や構成上の特徴に関心を持ち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。

	<ul style="list-style-type: none"> ・創作に用いる楽器は、生活の中にある物を活用して行う。 ・表したい情景を決定し、「表現のめあて」を見直す。 ・「表現のめあて」を再設定する。 ・グループ同士で鑑賞をし合い、より音色やテクスチャ、構成を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 <p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に「表現のめあて」を決定する。【収M】 	方法	/	活動の様子 学習プリントの記述		
11	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他のグループの演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	音楽表現を創意工夫するために必要となる課題に沿った音の選択や組み合わせなどの技能が身に付いている。	/		
		B	音楽表現を創意工夫するために必要な技能が身に付いている。もしくは、課題に沿った音の選択や組み合わせなどの技能が身に付いている。			
		方法	創作作品、発表 学習プリントの記述			

	<p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 伝えられたアドバイスや録音した音源を基に「表現のめあて」を決定する。【収M】 	方法		活動の様子 学習プリントの記述		
6	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表会をする。 他のグループの演奏を鑑賞する。 題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	「旋律」と「強弱」の働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。			
B	「旋律」、もしくは「強弱」の働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。					
方法	発表 学習プリントの記述					

< 題材計画表 >

時	学習内容	評 価				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1・2	<p>【つかむ場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">リズムやテクスチャの働きをいかして表現しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> 課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">①リズムをいかした表現 ②テクスチャをいかした表現</div> <ul style="list-style-type: none"> 「リズム」や「テクスチャ」はどのような特徴のある音楽を形づくっている要素なのかを知る。 <p>【拡散的思考】</p> <p>『ミニマルミュージック』第1時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニマルミュージックをいくつか鑑賞し、共通点を見つける。 各楽曲の「リズム」や「テクスチャ」の働きについて知覚したことや、それらが生み出す特質や雰囲気について感受したことを、ワークシートにまとめる。 知覚したことや、感受したことの関連を考える。 考えたことを、全体で共有する。 「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。 <p>『ストーリーをリズムで表現しよう』第2時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 音符や拍子についての知識を復習する。 5人程度のグループを作る。 グループで本創作のテーマとなるモチーフ（1小節のリズム）を創作する。 グループで表したいストーリーを、場面1～4に分けて考える。 個人で「表現のめあて」を設定する。 「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】 	<p>目 標</p> <p>知 曲想と「リズム」や「テクスチャ」の働きとの関わりを理解する。</p> <p>「リズム」や「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>思 「リズム」や「テクスチャ」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて考え、思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。</p> <p>態 「リズム」や「テクスチャ」の働かせ方の多様性に関心をもち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>	<p>知識・技能</p> <p>曲想と「リズム」や「テクスチャ」の働きとの関わりを理解している。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>「リズム」や「テクスチャ」の働きを理解し、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>「リズム」や「テクスチャ」の働かせ方の多様性に高い関心をもって取り組もうとしている。また、他者と意見を共有する中で、自己の表現だけでなく、グループで表現をより高められるよう、試行錯誤をしたり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。</p>	
		<p>方法</p> <p>学習プリントの記述</p>	<p>知識・技能</p> <p>曲想と「リズム」、もしくは「テクスチャ」の働きとの関わりを理解している。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>「リズム」の働き、もしくは「テクスチャ」の働きを理解し、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>A</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>「リズム」や「テクスチャ」の働かせ方に関心をもち取り組もうとしている。また、他者からの助言を参考に、自己の表現を試行錯誤しながら取り組もうとしている。</p>
		<p>方法</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>「リズム」や「テクスチャ」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。</p>	<p>B</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>活動の様子 学習プリントの記述</p>
3・4	<p>【つくる場】</p> <p>【拡散的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> モチーフを反復させたり、重ね方を工夫したりすることで、考えたストーリーを音楽で表現できるよう、グループで創作活動を行う。本題材では、ボディーパーカッションや椅子を使って創作をする。 「試行錯誤するポイント」である「リズム」や「テクスチャ」の働きが生かされる奏法となるよう、グループで練習に取り組む。 「表現のめあて」を見直し、再設定する。 各グループで、互いの演奏を鑑賞し合わせ、より「リズム」や「テクスチャ」を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 	<p>方法</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>「リズム」、もしくは「テクスチャ」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。</p>	<p>方法</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>活動の様子 学習プリントの記述</p>

	<p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に、「表現のめあて」を決定する。【収M】 				
5	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他のグループの演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	<p>「リズム」と「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>		
		B	<p>「リズム」、もしくは「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>		
		方法	<p>創作作品，発表 学習プリントの記述</p>		

< 題材計画表 >

時	学習内容	評 価				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
題材名	<p>リズム (間) や速度の働きをいかして表現しよう < 8時間完了 > 「さくらさくら」(表現: 器楽, 創作) 「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」(鑑賞) 「六段の調」(鑑賞)</p>	<p>知 曲想と「リズム (間)」や「速度」の働きとの関わりを理解する。 「リズム (間)」や「速度」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>思 「リズム (間)」や「速度」の働き方を試行錯誤しながら、どのように音楽で表現するかについて考え、思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。</p> <p>能 「リズム (間)」や「速度」の働き方の多様性に関心を持ち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>				
1 2 3 4	<p>【つかむ場】 ・課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">リズム (間) や速度の働きをいかして表現しよう</div> ・課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">①リズム (間) をいかした表現 ②速度をいかした表現</div> 【拡散的思考】 『さくらさくら』第1時限 ・箏の各部分の名称や、調弦、奏法などを知る。 ・箏で「さくらさくら」を演奏する。 ・箏を演奏して気付いたこと・考えたことを記録する。 『交響曲第5番ハ短調 第1楽章』第2・3時限 ・ソナタ形式について知る。 ・「交響曲第5番ハ短調」を鑑賞し、動機の変容に着目し、音楽の要素の働きと、それらによって生み出される曲想を捉える。 ・ベートーヴェンの人生について知る。 ・動機の八部休符「間」や、ソナタ形式の場面ごとの「間」の変容に着目し、時間的な変化を知覚するとともに、それらに込められた思いや意図をベートーヴェンの人生と照らし合わせ捉える。 ・演奏者の違いによる、速度が変化し、「間」の表現が変化することを捉える。 ・本楽曲の「間」や「速度」について、捉えたことを批評文でまとめ、グループで共有する。 ・「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。 『六段の調』第4時限 ・初段から六段を、通して鑑賞し、速度の変化を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を受感する。 ・速度変化による「間」の変容について捉える。 『さくらさくら』第4時限 ・第4時限までに考えたことを基に、個人で「表現のめあて」を設定する。 ・「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】</p>	A	<p>曲想と「リズム (間)」や「速度」の働きとの関わりを十分に理解している。</p> <p>「リズム (間)」や「速度」の働きを知覚するとともに、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感し、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>		A	<p>「リズム (間)」や「速度」の働き方の多様性に関心を持ち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。</p>
		B	<p>曲想と「リズム (間)」, もしくは「速度」の働きとの関わりを理解している。</p> <p>「リズム (間)」の働き, もしくは「速度」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感し、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>			
		方法	<p>学習プリントの記述</p>	<p>学習プリントの記述</p>		B
5 6 7	<p>【つくる場】 【拡散的思考】 『さくらさくら』第5～7時限 ・「さくらさくら」の表現したい情景を、場面ごとに考える。 ・思い浮かべた曲想を実現するためには、どのようなリズム (間) や速度変化を用いると良いのか、箏を演奏しながら、試行錯誤をする。 ・表したい情景を決定し、「表現のめあて」を見直す。</p>	A	<p>「リズム (間)」や「速度」の働き方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。</p>			
		B	<p>「リズム (間)」, もしくは「速度」の働き方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。</p>	方法	<p>活動の様子 学習プリントの記述</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現のめあて」を再設定する。 ・グループ同士鑑賞し合わせ、よりリズム（間）や速度をいかした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 <p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に「表現のめあて」を決定する。【収M】 	方法	/	活動の様子 学習プリントの記述		
8	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他者の演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	「リズム（間）」と「速度」の働きを生かした音楽表現をするために必要な十分な技能を身に付けている。	/		
		B	「リズム（間）」、もしくは「速度」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。			
		方法	創作作品、発表 学習プリントの記述			

	<ul style="list-style-type: none"> ・創作に用いる楽器は、生活の中にある物を活用して行う。 ・表したい情景を決定し、「表現のめあて」を見直す。 ・「表現のめあて」を再設定する。 ・グループ同士で鑑賞をし合い、より音色やテクスチャ、構成を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 <p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に「表現のめあて」を決定する。【収M】 	方法	/	活動の様子 学習プリントの記述		
11	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他のグループの演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	音楽表現を創意工夫するために必要となる課題に沿った音の選択や組み合わせなどの技能が身に付いている。	/		
		B	音楽表現を創意工夫するために必要な技能が身に付いている。もしくは、課題に沿った音の選択や組み合わせなどの技能が身に付いている。			
		方法	創作作品、発表 学習プリントの記述			

	<p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に「表現のめあて」を決定する。【収M】 	方法		活動の様子 学習プリントの記述		
6	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他のグループの演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	<p>「旋律」と「強弱」の働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>			
B	<p>「旋律」、もしくは「強弱」の働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>					
方法	<p>発表 学習プリントの記述</p>					

<題材計画表>

時	学習内容	評 価						
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
1・2	<p>【つかむ場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">リズムやテクスチャの働きをいかして表現しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> 課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">①リズムをいかした表現 ②テクスチャをいかした表現</div> <ul style="list-style-type: none"> 「リズム」や「テクスチャ」はどのような特徴のある音楽を形づくっている要素なのかを知る。 <p>【拡散的思考】</p> <p>『ミニマルミュージック』第1時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニマルミュージックをいくつか鑑賞し、共通点を見つける。 各楽曲の「リズム」や「テクスチャ」の働きについて知覚したことや、それらが生み出す特質や雰囲気について感受したことを、ワークシートにまとめる。 知覚したことや、感受したことの関連を考える。 考えたことを、全体で共有する。 「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。 <p>『ストーリーをリズムで表現しよう』第2時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 音符や拍子についての知識を復習する。 5人程度のグループを作る。 グループで本創作のテーマとなるモチーフ（1小節のリズム）を創作する。 グループで表したいストーリーを、場面1～4に分けて考える。 個人で「表現のめあて」を設定する。 「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】 	目 標	<p>知 曲想と「リズム」や「テクスチャ」の働きとの関わりを理解する。</p> <p>「リズム」や「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>思 「リズム」や「テクスチャ」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて考え、思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。</p> <p>態 「リズム」や「テクスチャ」の働かせ方の多様性に関心をもち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>	知識・技能	<p>曲想と「リズム」や「テクスチャ」の働きとの関わりを理解している。</p>	<p>「リズム」や「テクスチャ」の働きを理解し、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	主体的に学習に取り組む態度	<p>「リズム」や「テクスチャ」の働かせ方の多様性に高い関心をもって取り組もうとしている。また、他者と意見を共有する中で、自己の表現だけでなく、グループで表現をより高められるよう、試行錯誤をしたり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。</p>
		A	<p>曲想と「リズム」、もしくは「テクスチャ」の働きとの関わりを理解している。</p>	<p>「リズム」の働き、もしくは「テクスチャ」の働きを理解し、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	A			
		方法	<p>学習プリントの記述</p>	<p>学習プリントの記述</p>	B	<p>「リズム」や「テクスチャ」の働かせ方に関心をもち取り組もうとしている。また、他者からの助言を参考に、自己の表現を試行錯誤しながら取り組もうとしている。</p>		
3・4	<p>【つくる場】</p> <p>【拡散的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> モチーフを反復させたり、重ね方を工夫したりすることで、考えたストーリーを音楽で表現できるよう、グループで創作活動を行う。本題材では、ボディーパーカッションや椅子を使って創作をする。 「試行錯誤するポイント」である「リズム」や「テクスチャ」の働きが生かされる奏法となるよう、グループで練習に取り組む。 「表現のめあて」を見直し、再設定する。 各グループで、互いの演奏を鑑賞し合わせ、より「リズム」や「テクスチャ」を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 	A	<p>「リズム」や「テクスチャ」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。</p>	<p>「リズム」や「テクスチャ」の働きを理解し、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	方法	<p>活動の様子 学習プリントの記述</p>		
		B		<p>「リズム」、もしくは「テクスチャ」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。</p>		<p>活動の様子 学習プリントの記述</p>		
		方法		<p>活動の様子 学習プリントの記述</p>				

	<p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に、「表現のめあて」を決定する。【収M】 				
5	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他のグループの演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	<p>「リズム」と「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>		
		B	<p>「リズム」、もしくは「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>		
		方法	<p>創作作品，発表 学習プリントの記述</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現のめあて」を再設定する。 ・グループ同士鑑賞し合わせ、よりリズム（間）や速度をいかした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 <p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に「表現のめあて」を決定する。【収M】 	方法	/	活動の様子 学習プリントの記述		
8	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他者の演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	「リズム（間）」と「速度」の働きを生かした音楽表現をするために必要な十分な技能を身に付けている。	/		
		B	「リズム（間）」、もしくは「速度」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。			
		方法	創作作品、発表 学習プリントの記述			